

2024年度 LCA国際小学校 学校関係者評価結果

LCA国際小学校では、「グローバルな視野をもち、自己肯定感、Well-beingが高い児童を育成するための教育のさらなる向上」を中・長期の重点目標として学校運営を行ってきました。

特に今年度は「子どもの個を尊重した教育と英語教育の質の向上」「保護者とのコミュニケーションの充実と学校と家庭の協力体制の増進」を重点目標としてきました。さらに教育活動と学校運営に分けた上で、目標を具体的に設けて学校運営を行い、児童アンケート・保護者アンケート・教職員アンケートの結果も踏まえて、自己評価を行いました。

2025年3月には保護者の代表（低学年2名・中学年1名・高学年1名）にお集まりいただき、学校関係者評価委員会を実施しました。当日は学校側から自己評価の結果を説明した後、学校への要望や期待について率直なご意見をいただき、保護者の視点を知るための機会といたしました。いただいたご意見等は、今後の教育活動や学校改善計画の参考として活用してまいります。

学校自己評価を受けての感想、また学校への要望・希望など (保護者意見より)

1. 教育課程

- ・英語授業内で教科横断的な学習の内容も行っており、英語力（例：英検準1級合格率）も伸びている。
- ・英語教育の質の向上が成果の理由。
- ・英語力向上の成果も学校評価に含め、プロセスだけでなく結果も示すべきとの意見あり。

2. 教科指導

- ・特に低学年では、教材は手書き対応可能なものが望ましい。
- ・算数における外国通貨の問題など、一部教材が日本の児童にとって難しい。
- ・評価については、学校の自己評価はB評価だが、Aでもよいとの声も。（このご意見を踏まえ評価を変更しました）

3. 児童支援・児童指導

- ・発達特性の検査については、より開かれた状態で多くの児童が受けられるようにした方がよいという意見とともに、保護者の心理的抵抗や個人情報の扱いに配慮が必要という意見。

- ・ニューロダイバーシティの理解は海外に比べて日本では遅れている。

4. 研修

- ・外国人教師にはポジティブディシプリン、日本人教師にはアドラー心理学ベースの研修を実施。

5. 保護者連携と連絡手段

- ・情報が複数媒体(ミマモルメ、掲示板、クラスルーム)から来てわかりづらい。
- ・クラスルームの情報の重要度に差があり、整理が必要。
- ・学校だより(ニュースレター)が改善され好評。
- ・保護者掲示板のアーカイブのタイミングについて、まだ終わってない行事はアーカイブの欄に移動しないよう配慮して欲しいとの声。

6. アンケート設計

- ・記述式より選択式の方が答えやすい。
- ・「満足度」よりも「理解度」「役立ち度」などの表現のほうが回答しやすい。
- ・レクチャー後にアンケート記入時間を設ける案も。

7. レクチャーと保護者交流会

- ・レクチャーの参加率が低く、アーカイブ配信や参加確認の工夫が必要。
- ・会場参加者にしかないメリットを出すことで、来校者を増やしていく工夫があるとよい。
- ・レクチャー後に保護者同士が交流する時間を設ける提案。
- ・内容は保護者の関心や学年に応じて変える。
- ・小グループ制やテーマ別参加制の導入の提案。

8. 学校と教員の理念共有・社内課題

- ・外国人教師と学園長の理念共有に課題あり。バイリンガルの橋渡し役が必要。
- ・教職員の離職が不安要素。保護者と協力して学校運営の改善を図るべき。
- ・社内ブランディングの強化、保護者のニーズの可視化が必要。

9. その他

- ・初回の保護者交流会をキックオフイベントとし、テーマやプロジェクトチームを形成。
- ・PTAのような形式ではなく、軽やかで任意参加の形を。
- ・秋田ふるさとスクールなどでつながった保護者は主体的に動きやすく、こうしたイベントは大切。



(学校関係者評価委員会の様子)